

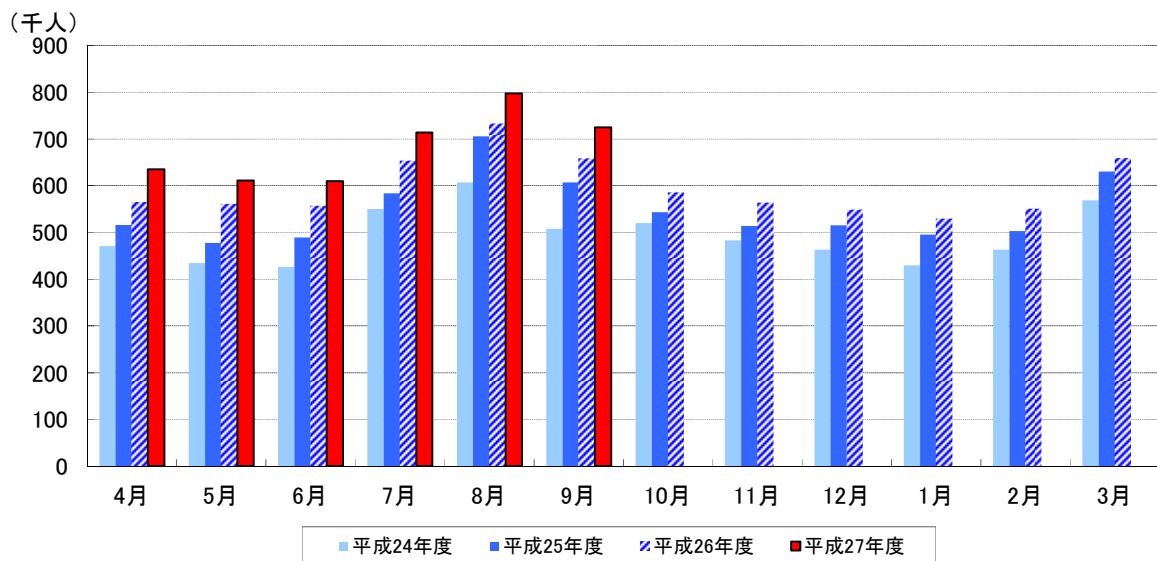
平成 27 年度上半期 沖縄県入域観光客統計概況

文化観光スポーツ部 観光政策課
平成 27 年 10 月発表

**平成 27 年度上半期は、409 万 3,000 人で過去最高を更新
対前年度 (H26) 比 +36 万 2,800 人、+9.7%**

入域観光客数 (国内+外国)

■月別入域観光客数の推移 (平成 24 年度～平成 27 年度)



■平成 27 年度上半期入域観光客の状況 (平成 26 年度との比較)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
平成27年度	635,400	611,400	610,000	714,000	797,500	724,700	4,093,000
平成26年度	565,600	561,400	557,300	653,900	733,300	658,700	3,730,200
増減数	69,800	50,000	52,700	60,100	64,200	66,000	362,800
増減率	12.3%	8.9%	9.5%	9.2%	8.8%	10.0%	9.7%

■平成 27 年度上半期の概況 (総括)

平成 27 年度上半期の入域観光客数は、409 万 3,000 人となり、対前年同期比で 36 万 2,800 人増加、率にして 9.7%増となった。月別では、8月に単月の過去最高を更新したほか、7月・9月でも初の 70 万人台を記録するなど好調に推移した。9月までに 36 か月連続で対前年同月を上回るとともに、23 か月連続で当該月の過去最高を上回る客数を記録した。

前年度上半期と比べて増加した主な要因は、次のとおりと考えられる。

- 官民一体となった誘客プロモーションの効果
- 円安の継続による旅行需要増
- 海外航空路線の拡充及びクルーズ船の寄港回数増

国内観光客についての動向

■平成 27 年度上半期国内観光客の状況（平成 26 年度との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
平成27年度	504,800	477,700	460,800	551,000	642,800	575,100	3,212,200
平成26年度	491,700	469,700	461,800	561,600	649,100	558,800	3,192,700
増減数	13,100	8,000	-1,000	-10,600	-6,300	16,300	19,500
増減率	2.7%	1.7%	-0.2%	-1.9%	-1.0%	2.9%	0.6%

■国内観光客の概況

数回にわたる台風の影響で、夏場は前年をやや下回ったものの、LCC を中心とした航空路線の拡充や、関西－宮古路線の再開を含む離島方面への直行便が好調であったこと等から、関西及び福岡は好調、その他各方面も堅調に推移している。

下半期も、景気はゆるやかな回復基調にあり、円安傾向が持続すると予想されていることから、今後も堅調に推移することが期待できる。

外国人観光客についての動向

■平成 27 年度上半期外国人観光客の状況（平成 26 年度との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
平成27年度	130,600	133,700	149,200	163,000	154,700	149,600	880,800
平成26年度	73,900	91,700	95,500	92,300	84,200	99,900	537,500
増減数	56,700	42,000	53,700	70,700	70,500	49,700	343,300
増減率	76.7%	45.8%	56.2%	76.6%	83.7%	49.7%	63.9%

■外国人観光客の概況

円安に伴う訪日旅行人気が続いていることに加え、沖縄発着航空路線が拡充（※）したことや、クルーズ船寄港回数が大幅に増加したことなどが、沖縄への入込増加の主な要因とみられ、4月から7月まで4ヶ月連続で単月の過去最高を上回る客数を更新した。方面別では、中国や韓国の伸びが顕著となっている。

下半期は、韓国におけるソウル・釜山－那覇路線の新規就航が予定されていることや、引き続き、クルーズ船の寄港回数増が予定されていることなどから、前年度以上の入込が期待できる。

※新規就航のあった路線：台北－那覇、ソウル－那覇、天津・福州・杭州－那覇路線
増便のあった路線：台北・台中・高雄－那覇、北京・上海－那覇、香港－那覇路線